

全国協議会 ニュース

2019年12月1日発行 第330号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

都道府県骨髄バンク担当者会議開催 関係機関の一層の連携を期待！

去る11月22日(金)、昨年に引き続き、都道府県骨髄バンク担当者会議(公益財団法人日本骨髄バンク主催)が東京都千代田区神田錦町にて開催されました。45都道府県から行政の骨髄バンク担当者が一堂に会し、若年層ドナー登録の推進や提供しやすい環境づくりについて意見交換が行われました。

冒頭、厚生労働省健康局難病対策課移植医療対策推進室 幕内陽介室長補佐から「ドナーの高齢化、ドナー都合のコーディネート中止や現場でのコミュニケーション不足などの現状やその対策について、各自治体での経験などを共有して骨髄バンク事業がより発展していくよう協力をお願いしたい」と挨拶がありました。

日本骨髄バンクからは主に次の5点について報告や要望がありました。

①事業の現状と課題：若年層ドナー登録拡大の一つとして契約説明員を東京都・神奈川県等の若年層が多い献血ルームに配置し一定の成果を上げている。ドナーリテンションの推進や提供環境整備の必要性について説明。住所不明者へのショートメール送信を実験的に行い19%から返信があった事などを報告。

②骨髄バンク推進連絡協議会設置の推進：平成31年3月の骨髄バンク集団登録事業実施要綱の改正により各都道府県の骨髄バンク担当部門は血液センターやボランティアなど関係者と連絡協議会を設置し連絡調整に努めるとされた。協議会設置と説明員

公募で登録会の実施が増えドナー登録者が増えた長野県を例に挙げて説明。未設置県へ設置を要請。

③ドナー休暇制度の推進：国の予算事業として展開。全国で企業訪問を実施している。県からの中小企業情報の提供が必要。

企業担当者には、骨髄バンク制度を説明した上で、休暇が取れないことが提供に至らない理由の一つとなっている事に理解を求め、ボランティア休暇など既存の休暇制度に組み込むなど企業の実情に合わせ提案する。481の企業が導入(11月14日現在数)。

④若年層ドナー登録の推進：大学や専門学校での啓発・登録会の開催が有効(下図参照)。

⑤語りべ講演・絵本朗読会：正しい知識を得る機会として開催を要請。

会議の中で、後藤千英さん(移植経験者)の語りべ講演も行われました。

会場分類別ドナー登録状況



年代	イベント会場 駅前		役所 病院		学校		企業		自衛隊		献血ルーム 血液センター		計	
	登録数	比率	登録数	比率	登録数	比率	登録数	比率	登録数	比率	登録数	比率		
10	26	4.9%	104	4.4%	1,384	51.6%	148	6.3%	9	5.7%	335	8.5%	2,006	16.7%
20	140	26.3%	624	26.1%	1,109	41.3%	498	21.2%	63	39.9%	1,544	39.3%	3,978	33.0%
30	144	27.1%	720	30.1%	106	3.9%	657	28.0%	39	24.7%	1,062	25.5%	2,668	22.2%
40	162	30.5%	730	30.6%	65	2.4%	811	34.5%	40	25.3%	854	21.7%	2,662	22.1%
50	60	11.3%	211	8.8%	20	0.7%	236	10.0%	7	4.4%	196	5.0%	730	6.1%
計	532	100%	2,389	100%	2,684	100%	2,350	100%	158	100%	3,931	100%	12,044	100%

※献血ルーム・血液センターの登録数は、アルバイトを配置した4ルームを含む

(2019年4月～9月 バンク調べ)

公益財団法人 日本骨髄バンク資料より抜粋

都道府県からは三重県と愛知県での取り組みが発表されました。

三重県：平成26年から3年連続でドナー登録者数が減少し、30歳未満の割合は28%にとどまっている。対策の一つとして、骨髄バンク推進月間に木下ほうかさんを迎えシンポジウムを行った。大学でもシンポジウムを開催し、終了後のアンケートで72%が登録したいとの回答を得られた。

「三重県骨髄提供の環境向上委員会」を設立し、地元ボランティアなど関係団体との交流の場ができたことは大きな前進。

愛知県：定期登録会や、市町村と協力し健康祭り会場などで献血併行型登録会を行うなどして登録窓口を増やし、平成27年と30年を比べると登録者は倍となった。

骨髄バンク推進月間に独自のリーフを作成、新聞に広報誌を掲載している。

「愛知県骨髄バンク登録推進調整会議」を年1回開催している。ボランティア団体とも連携し、献血ルームでの呼びかけを実施。ドナー休暇制度導入推進のため経済団体を通じ周知を依頼している。

発表の後には、6ブロックに分かれて、熱心な意見交換が行われました。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

《MONTHLY JMDP(11月15日発行)より抜粋》

■日本骨髄バンクの現状(2019年10月末現在)

	9月	10月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,937	4,731	526,022	811,347
患者登録者数	197	250	2,008	57,854
移植例数	88	123	—	23,751

■10月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム／915人、献血併行型集団登録会／3,555人、集団登録会／179人、その他／82人

■10月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

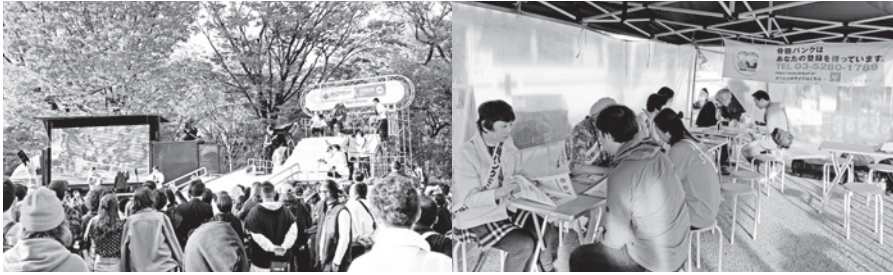
10代 5,488人／20代 81,524人／30代 139,557人
40代 223,649人／50代 75,804人

■10月の20歳未満の登録者549人

■10月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：823件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD × HEROs FESTA2019 開催



今年も登録会頑張りました

11月9日(土)、10日(日)の両日、今年も代々木公園で一般社団法人SNOWBANKが開催した「東京雪祭」で関東5団体(埼玉の会、千葉の会、東京の会、友の会、神奈川の会)の協力を得て、全国協議会では献血併行型登録会と骨髄バンクの普及啓発活動を行いました。説明員、ボランティアの参加者は、計42人でした。

両日とも晴れて天候に恵まれました。9日は、メインイベントの進行の関係で登録者は伸び悩み39人でしたが、10日は、受付時間の延長効果で何と73人となり、2日間の目標111人を超えて112人になりました。また献血者も2日間の目標222人を超えて236人になり、両方とも目標達成です。それにつけても、献血はリピートで何回もできますが、ドナー登録は一人でも一回しかできない中で、毎年多人数の目標を達成していることに驚かされます。これは東京雪祭関係者の皆さんの努力の賜物と思います。

今年はアスリート集団「HEROs」とのコラボで、井上康生さん(柔道指導者)、飯沼誠司さん(プロライフセーバー)等有名人が多数来られドナー登録下さいました。

(総責任者 梅田正造)

東京雪祭 2019 に参加して

全国協議会・事務局業務に10月中旬より携わり、初めて大がかりなイベント、「東京雪祭」に参加いたしました。不勉強で恥ずかしい限りですが、当日までスノーバンクの目的というものを明確に理解しないままでの参加でした。当日参加してようやくその意義と

いうものを体感することができました。

当初、目標を聞いて、昨年対比、当日の好天、会場の賑わいを考えると比較的容易に達成できるのではないかと簡単に考えていましたが、初日は登録、献血とも伸び悩み、協力を得るのは本当に困難なことだと改めて実感した次第です。私は初日だけの参加でしたが、2日目終了後、みごと目標を達成したとお聞きしたときは、参加されたスタッフ一人ひとりの活動の成果であると頼もしく思うと同時に、この成果を必要とされる方々のことを思い、自らももっと機能しなければならないと痛感いたしました。

また、お子さん向けの“お面”や“くじ”の販売など、スマホ流行りの今日、本当にお子さんたちに訴求するのかな?と半信半疑でしたが、蓋を開けてみればお父さんやお母さんの袖を引っ張ってブースまで連れてくるお子さん、お面の前から動かなくなってしまったお子さんなど多く見られ、かなりインパクトを与えた様子でした。相手の視線に合わせたブース運営がどれだけ大切かということも身に沁みました。

終わってみれば、成果を得るためにはやはり地道な活動に勝る方法はないということも理解した体験でした。

(事務局 柴山洋久)

東京雪祭と 骨髄バンクとの関わり

東京雪祭の主催者、荒井 DAZE 善正さんとの関わりは、スノーボードの趣味が高じて友人と一緒に参加したイベントでの出会いがキッカケです。DAZE さんのお話を聞き、著書を拝読させて頂いたことで、私も学生時代に白血病で友人を亡くしておりました

ので、DAZE さんの考えに共感し、「千葉の会」をご紹介頂きまして、説明員資格を取得しました。

「千葉の会」の説明員としてスノーバンクイベントに参加させて頂き、20~40代の方々が、骨髄バンクに多く登録して下さる環境に、私自身も活動する意義と喜びを感じておりました。

しかし、家庭と仕事とのバランスで活動を続ける難しさを感じ始めた頃、DAZE さんに言葉を掛けて頂いたことが、現在も活動を継続している大きな要因です。

東京雪祭では献血ボランティアリーダーとしての役割を頂いています。意識していることは、2点あります。1点目は献血者数と登録者数の目標がある中で、数字情報を正しく「東京雪祭」ボランティア仲間と共有することです。時間帯によって、参加者の皆様が献血・登録にいかに足を運び易いか常に仲間達と一緒に考えています。2点目は上記に伴い、献血ブースのスタッフとしっかり連携をとり、説明員の皆様とコミュニケーションをとることです。説明員として参加した経験ですが、献血情報が分からないと大変動きづらくなってしまいます。「東京雪祭」も大きなイベントとなり、DAZE 夫婦が全てのカテゴリーに常時、関わり続けることが大変な状況となっている中で、スタッフの皆様がスムーズに動けるように、架け橋役になることが重要だと自負しています。過去2年間の雪祭では、献血者数・登録者数共に目標を達成しています。スタッフの皆様が同じ目標を共有し、それぞれのカテゴリーで活躍されており、全体的な環境の仕組みが参加者の皆様の心に伝わっているからだと思っています。「東京雪祭」は、色々な事を経験でき、学べ、人間的に成長が出来る素晴らしいイベントでもあり、全てのスタッフの皆様が心から感謝しています。

説明員は今後数十年においても、病気の方々にとりまして、重要な役割を果たす活動だと思っています。説明員として日々精進し、将来的に千葉の会の一員として活動を増やし、社会貢献したいと思っています。

(東京雪祭 献血担当 菅谷吉信)

薬局で説明員講習会開催



11月10日(日)、千葉県野田市の「もみのき薬局様」で説明員講習会を行いました。これは千葉県薬務課に説明員の増員を図りたいとお願いをしていたことがきっかけで、同課の仲介で実現しました。講習受講者は薬剤師さん8人、事務職さん3人の合計11人で、講師は千葉の会の柴谷さん、北村美さん、戸辺さん、梅田の4人が担当しました。

私の座学の後、ロールプレイングをしましたが、1時間の予定が皆さん大変熱心で、結果1時間40分と大幅延長になりました。初めに柴谷さん、北村美さんによる説明場面の実演を丁寧に行った後、時間の都合で直ぐに11人を4班に分け、講師一人に2~3人のグループを作り、たっぷり時間を掛けて個別プレイングをして頂きました。

もみのき薬局様は、この地域の薬局では厚生労働省から指定された2つしかない地域医療を支える「健康サポート薬局」とのことです。また、グループ4薬局でテーマを決めて社会活動に取り組む運動をしていて、もみのき薬局様では骨髄バンク説明員になって、お客様にドナー募集を広め、希望者には説明を行うこととしました。

千葉の会では野田市を始め千葉県内で献血併行型登録会を多く開催していますので、今後はお時間のある時は参加下さいとお願いしました。

(千葉の会 梅田正造)

私達もみのき薬局は健康サポート薬局として認可されています。健康サポート薬局には、地域の皆様の健康と地域医療を支える使命があります。今までの調剤薬局では、基本的に病気を患った方が処方箋を持っていらっしゃる事がほとんどでした。しかし私達は処方箋がなくても気軽に立ち寄れ

る、地域のみなさんに頼りにされるような薬局を目指し、実際私達にどんな事ができるだろうか、どんな事が必要とされているのかをスタッフみんなで考えながら、様々な事に取り組んでいるところです。

そんな中、千葉県薬務課主催の地区別薬事講習会に参加した際、薬務課の方より骨髄バンクの説明員が不足しているとお話をいただき、薬局でもドナーを募る窓口となることのできるのではないかと考えたのです。早速、薬局全体で対応できるよう、事務3人とスタッフ8人が説明員講習を受講しました。どこまでお役に立てるかはわかりませんが、ポスター貼付、リーフ配布をしてお客様に日々声かけをしていき、数ヶ月ごとにドナー登録会も行っていく予定です。また今後の活動を経て得られた成果は薬剤師会などに報告・情報発信していき、全国各地の調剤薬局でも説明登録会ができるような環境作りの活動もしていきたいと考えております。

(もみのき薬局 薬局長 篠原沙織)

「骨髄バンク推進自治体議員連盟」発足へ



右列手前：日比美咲議員、左列最前：西てつし議員、左奥手前：猪奥美里議員、左奥：成田政隆議員、奥中央：小椋修平議員

11月3日(日祝)、イベントスペースのエルモスペース(愛知県名古屋市)に名古屋市議会議員であった日比健太郎さんの命日に若手地方議員が集まりました。堺市議会議員の西てつし氏が呼び掛けた、「骨髄バンク推進自治体議員連盟」の発動です。

「急性白血病で亡くなった日比議員が遺した、骨髄ドナー登録推進プランを進めるには国会議員の連盟はあるが、自治体議員が超党派で連携する必要があると考えた。より各地と距離の近い自治体議員は普及推進活動ができ

るのではないかと考えた。移植に用いる造血幹細胞の適切な推進に関する法律に、地方公共団体の責務が記載されている。だからわれわれはやらなきゃいけない。」という、西氏の力強い言葉にとっても励まされました。

出席した日本骨髄バンクの小島広報渉外部長より、骨髄バンクの現状や課題を聞き、各議員も地元の取り組みを発表、共有しました。

「骨髄バンク推進自治体議員連盟」会長は日比健太郎さんの妻の日比美咲名古屋市議会議員に決まりました。今後、仲間を全国で増やしていく予定とのことでした。(理事 浅野祐子)

11月3日、35歳で他界した夫・日比健太郎の命日に、超党派骨髄バンク推進自治体議員連盟が立ち上がりました。きっかけは夫の残した想いとその想いを繋いだ仲間たちの想いからでした。

発起人である大阪堺市議会議員の西てつし議員は、生前夫とともに政策を学んだ仲間であり友人です。

「地域や党派を超えて取り組めば骨髄バンクが拡大する。それが日比健太郎の想いをつなげる事になる」と話してくれました。

その想いに、多くの仲間が賛同し、奈良県議会 猪奥美里議員、足立区議会 小椋修平議員、滋賀県議会 成田政隆議員も呼びかけ人となってくれました。今も病と戦う患者さんの未来を願い、少しでも希望が持てるよう、私たちにできる事は多くあると思います。全国の仲間とともにしっかり活動をしてまいります。

(名古屋市議会議員 日比美咲)

基金給付を受けた方からのメッセージ

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

移植をして、退院後も通院しなくてはいけません。治療費が高額のため治療が続いていけないのか不安でした。

助成金が入り、治療費の心配が減りました。

前向きに治療と、自分の病気に向き合い、病気を治したいです。

(東北地方在住)

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

富山

あなたのナイスランが
ひとりの患者の希望になる!!



登録することだけが患者さんへの応援じゃない「走ること」でPRをできないかと考え、10月27日(日)に行われた富山マラソンで、「骨髄バンクにご協力ください」と書かれたタスキをつけて走ってくれるランナーを募集したところ、18名の方が参加してくれました。当日は午後から雨になり寒かったのですが、皆さん、沿道で「骨髄バンク、頑張れ!」の応援を受けながらの最高のナイスランでした。

前日のエントリー会場では富山県主催によるドナー登録会もあり、81名の登録がありました。富山の会では、今後もスポーツを通じて、普及啓発をしていきたいと考えています。

(富山県骨髄バンクを広める会 堂田千里)

神奈川

横浜マラソンで
骨髄バンクをPR



右から3番目: 田中一道さん

骨髄バンクを応援する「骨髄バンクランナーズ」7人が11月10日(日)に開催された横浜マラソンに出走しま

した。横浜マラソンは台風接近で中止になった2年前を除いて4回開催され、今年のフルマラソン出走者は最多の26,892人、沿道応援者は約69万人と賑やかでした。県内や青森などから骨髄提供者、骨髄移植者の家族や友達が集まり、黄色いタスキ「骨髄バンクにご協力ください!」を担いで大会に臨みました。骨髄移植者がフルマラソンを完走したことに感動し、2回目の骨髄提供をしたばかりの私は、背中ゼッケンの下側に貼り紙「骨髄ドナー2回提供済み」をつけて、7年ぶりのフルマラソンに挑戦しました。7人が他ランナーに笑顔で会釈し、無数の沿道応援者とハイタッチしながら骨髄バンクをPRしました。

聴覚障がいのある私は沿道の声援が全く聞こえませんでした。南国タビチの伝統舞踊や熱い拍手が心に響き、応援を力に変えてゴールを目指しました。7人のうち写真メンバー全員の6人が無事に完走しました。2回も骨髄提供しても元気でフルマラソンを走れたことを世間に強調したことで骨髄バンクドナー登録が増え、1人でも多くの患者さんに「いのちのバトン」を渡せたら嬉しく思います。

今後も「骨髄バンクランナーズ」と一緒にビッグな都市マラソン大会に積極的にエントリーし、黄色いタスキで骨髄バンクをPRしたいと思います。

(骨髄バンクランナーズ 田中一道)

岐阜

“いのちのリレー”PR
骨髄バンクランナーズ

11月10日(日)に開催された、いびがわマラソンでの我々骨髄バンクランナーズの啓発ランが中日新聞に掲載されました。その記事がとても素晴らしいので、一部省略と補足し寄稿させていただきます。

「骨髄バンク制度をPRするチーム『骨髄バンクランナーズ』が出演。そろいのたすきとTシャツ姿で走り、制度の周知やドナー登録を呼びかけた。メンバーはフルの6人とハーフの1人。岐阜県内や愛知・京都などから、提供者や移植を受けた患者、当事者の家族や友人が集まった。『骨髄バンクにご協力ください!』と書かれた黄色いタスキを着用し、共に走る出場者や沿道の人々にPR。全国骨髄バンク推進連絡協議会の田中重勝理事長も応援に駆け付けた。

メンバーで2回の提供経験がある大島芳徳さんは『ドナー登録が増えるほど適合者が見つかる可能性は高くなる。1人でも多くの患者さんに希望を持ってもらいたい。』と願う。

骨髄バンクランナーズは2年前の横浜マラソンを皮切りに全国で企画され、いびがわマラソンへの出場は3回目。(以上11月12日(火)、中日新聞朝刊から抜粋)

(骨髄バンクランナーズ 中山武彦)



後列右端: 中山武彦さん、前列中央: 大島芳徳さん、前列左端: 田中重勝理事長

心からのご寄付に感謝申し上げます ● 10月21日～11月20日(敬称略)

●一般

渡辺 穂孝	現金	5,000円
豊田 さやか	現金	10,000円
コヤス ノブヒコ	現金	10,000円
匿名	現金	20,000円
匿名	現金	69,000円
匿名	現金	3,000円
匿名	切手	570円

●募金箱

株式会社スリのアオキ	現金	405,231円
株式会社 マルト商事	現金	283,708円
ことし大和屋	現金	4,952円
有限会社 金寿司	現金	5,000円
スノーバンク募金箱	現金	23,281円

●佐藤さち子基金

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 9,623円

●いのちの輝きBook寄付 現金 3,295円

●つながる募金 現金 16,001円

●キモチと。 現金 197円

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会